

金利上昇の影響、 企業の43.0%が 「マイナスの方が大きい」

一方で「影響はない」と回答した企業15.9%に上昇

富山県・金利上昇による企業への影響調査(2025年12月)



本件照会先

西浦 康(支店長)
帝国データバンク
富山支店
TEL076-432-8110
FAX076-432-8611

発表日

2026/02/05

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

富山県内企業の金利の上昇が自社の事業に与える影響は、「マイナス影響の方が大きい」が前回調査(2024年4月調査)から7.9ポイント低下し、43.0%となった。また、「どちらとも言えない(±で相殺)」が24.3%で1.6ポイント低下した。一方で、「影響はない」が15.9%と4.8ポイント上昇し、全国の13.5%を2.4ポイント上回る結果となった。

今後も金利の上昇が継続することが見込まれる現状で、借入金の多い中小企業にとっては、金利の上昇による支払利息の増加で利益が圧迫され、経営環境は一層厳しさを増すことが懸念される。

※株式会社帝国データバンク富山支店は、富山県299社を対象に、「金利上昇による企業への影響」に関するアンケート調査を実施した

調査期間:2025年12月16日～2026年1月5日(インターネット調査)

調査対象:富山県299社、有効回答企業数は107社(回答率35.8%)

金利上昇の影響、「マイナス影響の方が大きい」が4割超

日本銀行の政策金利の引き上げに連動して、長期プライムレートは、2025年1月10日の2.00%から2026年1月9日現在で2.75%となり、1年間で0.75%上昇した。

そうしたなか、富山県内企業に金利の上昇は自社の事業にとってどのような影響があるか尋ねたところ、「マイナス影響の方が大きい」と回答した企業が43.0%となり、前回調査(2024年4月調査)から7.9ポイント低下し、全国の44.3%を1.3ポイント下回る結果となった。次いで、「どちらとも言えない(プラスとマイナス両方で相殺)」が1.6ポイント低下し、24.3%となった。一方で、「影響はない」が15.9%と4.8ポイント上昇、全国の13.5%を2.4ポイント上回る結果となった。無借金経営などが要因として考えられる。また、「わからない」が4.7ポイント上昇して14.0%となり、不透明感が増したと感じる企業が増加したと考えられる。

業界別にみると、「マイナス影響の方が大きい」では、『製造』が前回比3.7ポイント上昇し56.1%でトップとなった。次いで、『運輸・倉庫』(50.0%、同16.7ポイント低下)が5割台で続き、設備投資による借入金利負担を懸念する業界が上位を占めた。なお、「影響はない」と回答した業界をみてみると、『建設』(22.2%)、『不動産』(100.0%)、『サービス』(42.9%)が全国(13.5%)を大きく上回った。

県内企業からは、「借入利息の増加を懸念」(漁業協同組合)、「借入金額圧縮により金利の影響を避けるしかない」(コンクリート製品製造)、「金融機関に対する返済額増が見込まれる」(旅館)、「生産性の向上と業務プロセスの改善によるコストダウンで対応」(税理士事務所)、「景気や為替の動向を注視」(製造)などの声が聞かれた。

今後も金利の上昇が継続することが見込まれる現状において、この傾向はさらに顕著となる可能性が高い。また、借入金の多い中小企業にとっては、支払利息の増加で利益が圧迫され、経営環境は一層厳しさを増すことが懸念される。企業は、借入方法の見直しのほか、価格転嫁やコスト削減など返済原資の確保を行うための対策を検討・実施することが求められる。

